

令和7年度入学 看護学部 一般選抜・前期 試験問題の出典

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	一	國分 功一郎	暇と退屈の倫理学 増補新版	2015年 pp.36-46より 一部改変	太田出版

令和7年度 一般選抜・前期

## 看護学部

### 小論文 (60分)

#### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、3ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(100点)

退屈と気晴らしについて考察するパスカルの出発点にあるのは次の考えだ。

人間の不幸などというものは、どれも人間が部屋にじっとしてられないがために起こる。部屋でじっとしていればいいのに、そうできない。そのためにわざわざ自分で不幸を招いている。

パスカルはこう考えているのだ。生きるために十分な食い扶持<sup>ぶちもち</sup>をもっている人なら、それで満足していればいい。でもおろかなる人間は、それに満足して部屋でゆっくりしていることができない。だからわざわざ社交に出かけてストレスをため、賭け事に興じてカネを失う。

それだけならまだましだが、人間の不幸はそれどころではない。十分な財産をもっている人は、わざわざ高い金を払って軍職を買い、海や要塞の包囲線に出かけて行って身を危険にさらす(パスカルの時代には、軍のポストや裁判官のポストなどが売り買いされていた)。もちろん命を落とすことだってある。なぜわざわざそんなことをするのかと言えば、部屋でじっとしてられないからである。

部屋でじっとしてられないとはつまり、部屋に一人でいるとやることがなくてそわそわするということ、それにガマンがならないということ、つまり、退屈するということだ。たったそれだけのことが、パスカルによれば人間のすべての不幸のゲンセン<sup>(1)</sup>なのだ。

彼はそうした人間の運命を「みじめ」と呼んでいる。「部屋にじっとしてられないから」という実につまらない理由で不幸を招いているのだとしたら、たしかに人間はこの上なく「みじめ」だ。

話を進めよう。ここからがパスカルの分析のおもしろいところだ。

人間は退屈に耐えられないから気晴らしをもとめる。賭け事をしたり、戦争をしたり、メイヨ<sup>(2)</sup>ある職をもとめたりする。それだけならまだ分かる。しかし人間のみじめはそこでは終わらない。

おろかなる人間は、退屈にたえられないから気晴らしをもとめているにすぎないというのに、自分が追いもとめるもの<sup>(3)</sup>のなかに本当に幸福があると思ひ込んで、とパスカルは言うのである。

どういうことだろうか？ パスカルがあげる狩りの例を通して見てみよう。

狩りというのはなかなか大変なものである。重いソウビ<sup>(3)</sup>をもって、一日中、山を歩き回らねばならない。お目当ての獲物にすぐに出会えるとも限らない。うまいこと獲物が見つければ、ヤツキ<sup>(4)</sup>になつて追いかける。そのあげく、捕れた捕れなかったで一喜一憂する。

そんな狩りに興じる人たちについてパスカルはこんな意地悪なことを考える。ウサギ狩りに行く人がいたらこうしてみなさい。「ウサギ狩りに行くのかい？ それなら、これやるよ」。そう言って、ウサギを手渡すのだ。

さて、どうなるだろうか？

その人はイヤな顔をするに違いない。

なぜウサギ狩りに行こうとする人は、お目当てのウサギを手に入れたというのに、イヤな顔をする<sup>(A)</sup>  
のだろうか？

(中 略)

パスカルが述べていることをより一般的な言い方で定式化してみよう。それを、〈欲望の対象〉と〈欲望の原因〉の区別として説明することができるだろう。

〈欲望の対象〉とは、何かをしたい、何か欲しいと思っているその気持ちが向かう先のこと、〈欲望の原因〉とは、何かをしたい、何か欲しいというその欲望を人のなかに引き起こすものことである。

ウサギ狩りにあてはめてみれば次のようになる。ウサギ狩りにおいて、〈欲望の対象〉はウサギである。たしかにウサギ狩りをしたいという人の気持ちはウサギに向かっている。

しかし、実際にはその人はウサギが欲しいから狩りをするのではない。対象はウサギでなくてもいいのだ。彼が欲しているのは、「不幸な状態から自分たちの思いをそらし、気を紛らせてくれる騒ぎ」なのだから。つまりウサギは、ウサギ狩りにおける〈欲望の対象〉ではあるけれども、その〈欲望の原因〉ではない。それにもかかわらず、狩りをする人は狩りをしながら、自分はウサギが欲しいから狩りをしているのだと思い込む。つまり、〈欲望の対象〉を〈欲望の原因〉と取り違える。

(中 略)

こう考えてくると、気晴らしは要するに何でもよいのだという気すらしてくる。退屈を紛らしてくれるなら何でもいい。あとは、選択可能な気晴らしのなかから、個人個人にあったものが選ばれるだけである、と。

だが、たしかに何でもよいのかもしれないとはいえ、条件はある。簡単だ。気晴らしは熱中できるものでなければならない。気晴らしは騒ぎを引き起こすものでなければならないのである。なぜ熱中できるものでなければならないのだろうか？ 熱中できなければ、ある事実に思い至ってしまうからである。気晴らしの対象が手に入れば自分は本当に幸福になれると思込んでいるという事実、もっと言えば、自分をだましていてという事実のことだ。

パスカルははっきり言っている。気晴らしには熱中することが必要だ。熱中し、自分の目指しているものを手に入れさえすれば自分は幸福になれると思込で、「自分をだます必要があるのである」。

〈欲望の対象〉と〈欲望の原因〉の区別を使って次のように言い換えてもいい。人は、自分が〈欲望の対象〉を〈欲望の原因〉と取り違えているという事実に思い至りたくない。そのために熱中できる騒ぎをもとめる。

自分をだますといっても、そこには深刻な趣きなどすこしもないことにも注意しておこう。人間は部屋にじっとしてられず、必ず気晴らしをもとめる。つまり、退屈というのは人間がけっして振り払うことのできない“病”である。だが、にもかかわらず、この避けがたい病は、ウサギ狩りとか賭け事のような熱中できるものがありさえすれば、簡単に避けられるのだ。ここに人間のみじめさの本質がある。人間はいとも簡単に自分をだますことができるのである。

(中 略)

気晴らしを巡る考察の末に現れるパスカルの解決策とは何か？ 人間のみじめな運命に対するパス

カルの解決策とは何か？ 拍子抜けするかもしれないが、それは神への信仰である。

パスカルは、「神なき人間のみじめ」「神とともにある人間の至福」と言う。これはけっして、「神への信仰が大切である」とか「人間は神への信仰によってこそ幸せになれる」などと抽象的に述べられているのではない。

パスカルは人間のみじめさを実に具体的に考えている。人間が退屈という病に陥ることは避けがたい。にもかかわらず人間は、つまらぬ気晴らしによってそれを避けることができる。そしてその結果、不幸を招き寄せる。

この構造からダツキヤクするための道が神への信仰なのである。

<sup>(5)</sup> だいぶパスカルの議論につきあってきた。そろそろ話を別の方面へと広げていこう。

パスカルの考えるおろかな気晴らしにおいて重要なのは、熱中できることという要素だった。熱中できなければ、自分をだますことができないから気晴らしにならない。

では、さらにこう問うてみよう。熱中できるためには、気晴らしはどのようなものでなければならぬか？ お金をかけずにルーレットをやっても、ウサギを楽々と捕らえることのできる場所で狩りをして、気晴らしの目的は達せられない。

つまり、気晴らしが熱中できるものであるためには、お金を失う危険があるとか、なかなかウサギに出会えないなどといった負の要素がなければならない。

この負の要素とは広い意味での苦しみである。苦しみという言葉が強すぎれば、負荷と言ってもいい。気晴らしには苦しみや負荷が必要である。

<sup>(B)</sup> ならば次のように言うことができるはずだ。退屈する人間は苦しみや負荷をもとめる、と。

私たちは普段、精神的・身体的な負荷を避けるために、さまざまな工夫を凝らして生きている。たとえば、長いこと歩いて疲れるのを避けるために自動車に乗る。だが、退屈すると、あるいは退屈を避けるためであれば、人はわざわざ負荷や苦しみをもとめる。苦勞して山を歩き、汗びっしょりになって、「それをやろうと言われても欲しくもない」ウサギを追いもとめる。

つまり、パスカルの言うみじめな人間、部屋でじっとしてられず、退屈に耐えられず、気晴らしをもとめてしまう人間とは、苦しみをもとめる人間のことに他ならない。

(國分功一郎『暇と退屈の倫理学 増補新版』、太田出版、2015年、pp.36-46より、一部改変)

問 1 下線部(1)~(5)を漢字で書きなさい。

問 2 下線部(A)に対する作者の考えを、文中の言葉を使用し 100 字以内で述べなさい。

問 3 下線部(B)について作者はどのように説明しているか述べたうえで、気晴らしには苦しみや負荷が必要であることについてのあなたの考えを 600 字以内で述べなさい。